

## 先週の説教要旨

『サウロの回心』井上隆晶牧師  
使徒言行録9章3~9、15~19節  
ルカによる福音書10章1~9節

①【神の光に照らされて変わる】パウロは元の名をサウロといい、ユダヤ教の中の厳格なグループであるファリサイ派に属し、ガマリエルという有名な教師から律法を学び、その教えを忠実に守っていました。そんなパウロにとって、キリスト教の教えというのは、とうてい受け入れられるものではありませんでした。自分のことを神だというイエスという預言者がいることや、どんな罪人でもこのイエスを信じれば、律法を守れなくても罪が赦され、神の国に受け入れられるというのは、神を冒瀆する教えであり、ユダヤ教の異端であって、絶対に許すことはできなかったのです。彼はとても熱心にキリスト教徒たちを迫害しました。そんな彼がダマスコへ行く途中で、突然天からの光に照らされて地に倒れ、キリストの声を聞きます。「サウル、サウルなぜ私を迫害するのか」(使徒9:4)。パウロがあなたはどなたですかと聞くと「私はあなたが迫害しているイエスである。起きて町に入れ。そうすれば、あなたのなすべきことが知らされる。」(同9:5~6)と言われました。彼は目を開けますが、何も見えなくなっていました。そこから三日間、目は見えず、何も食べることもできませんでした。ここからパウロはまったく無力になり、沈黙します。自分の正しさというものがぜんぶ崩れ、自分というものが砕かれたのです。榎本保郎牧師は、「私たちの心に何かかたいものがあったり、自分というものがとけてなくなっていないのは、太陽の当たっていない霜柱のように、キリストの光が当たっていないからである。神は怒り狂

うサウロに、そのような一つの聖なる体験をさせた。」と言っています。神の道具、神を入れる器にされるためには、自分という者が砕かれなければなりません。そのために、神からの生きた光を心にあてることです。

②【アナニヤの召命について】パウロが生まれるために、どうしても欠かせない人物がアナニヤでした。彼は既にキリスト教徒として召されており、この時ダマスコに住んでいました。このアナニヤに神は幻の中で語ります。「立って、『直線通り』と呼ばれる通りへ行き、ユダの家にいるサウロという名の、タルソス出身の者を訪ねよ。今、彼は祈っている。」(使徒9:11)しかし、アナニヤは彼がキリスト教徒たちにどんなにひどい悪事を働いてきたかを主に訴えると、主は「行け。あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。」(使徒9:15)と言います。そこでアナニヤは勇気を出して出かけてゆき、彼に洗礼を施したのです。神様の計画が実を結ぶためには、先にキリスト教徒として召された者の献身と忠実さが必要だということです。サウロがパウロとして生まれるために、アナニヤは先に召されたということです。私たちが先にキリスト教徒として召された意味も、誰かの救いのためなのです。

③【召命について】パウロは手紙の中で「わたしを母の胎内にあるときから選り分け、恵みによって召し出してください。神が、御心のままに、御子をわたしに示して、その福音を異邦人に告げ知らせるようにされた」(ガラテヤ1:15~16)と語っていますし、預言者エレミヤも「母の胎から生まれる前に、わたしはあなたを聖別し、諸国民の預言者として立てた。」(エレミヤ1:5)と、生まれる前からの神の選びがあることについて語っています。^

# 週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立1957年12月1日 教会設立2001年12月2日  
〒534-0012 大阪市都島区御幸町2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

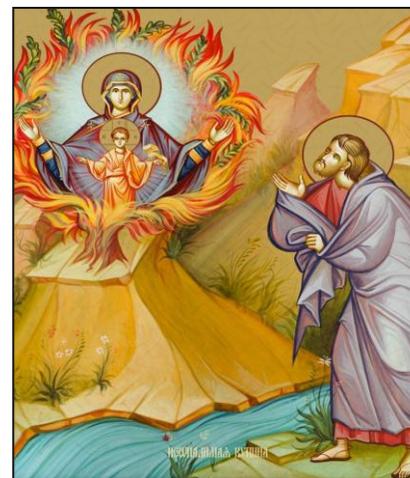
Eメールアドレス: [miyakoch@eagle.ocn.ne.jp](mailto:miyakoch@eagle.ocn.ne.jp)

ホームページアドレス: <https://miyakojima-church1.com>

郵便振替00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上隆晶

2025年7月13日 No.1828



《モーセと燃える柴》

## 都島教会の2025年度の宣教方針

標語 《会堂建築の準備をしよう》

聖句 「主御自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の労苦はむなし。」(詩編127:1)

### 2025年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均28名を目指します。
- 2 一年間に一人を礼拝にお誘いします。
- 3 信徒の交わりを大切にします。
- 4 会堂建築のための具体的な準備を進めます。